

天才アート KYOTO



天才アートとは、障
 碍のある人の多くがもつ
 優れた感性と表現力、
 そこから湧き出る独
 創的なアート作品に対して、特定非営
 利活動法人 障害者芸術推進研究機構
 (天才アート KYOTO) が独自にネーミ
 ングしたものです。当機構は天才ア
 ートを推進し、その啓発・普及活動を積
 極的に行っています。



発行日 2020年1月31 (金)

発行者 特定非営利活動法人
 障害者芸術推進研究機構

天才アート KYOTO

発行所 〒605-0811
 京都市東山区大和大路四条下る
 4丁目小松町 四条・新道アトリエ
 info@tensai-art.kyoto
 http://tensai-art.kyoto

編集 株式会社 三六六

天才アート

検索



『カラー』土屋彰男 Akio TSUCHIYA 1971 年生 W727×H910mm キャンバス・アクリル絵の具・クレパス 2016 年



シンポジウムを開催!

文化庁委託事業『令和元年度 障害者等による文化芸術活動推進プロジェクト』によるシンポジウムを開催しました。

昨年11月3日(日・祝)、京都経済センターの会議室を会場にアメリカ・ニューヨークのクイーンズ・ミュージアムのアートディレクターH. Iwasaki氏を迎え、「北米のアウトサイダーアート事情〜日本の障害者アートの海外展開に向けて」と題し、Iwasaki氏の基調講演と当機構や村上京都副市長とのパネルディスカッションを行いました。

基調講演では、アメリカでの関連展覧会や美術館の取り組みの状況、障害者アートのマーケットの事情など、最新の情報について映像を交えて具体的に聞くことができました。後半のパネルディスカッションでは、海外事情を踏まえた日本の障害者アート作品の海外展開に向けた条件整備や、情報発信の在り方について有益な討論を行うことができました。



基調講演で語るH.Iwasaki氏

来年度以降も、海外での作品展示などによる海外発信や作品の販売などに向けて、継続してクイーンズ・ミュージアムとの連携・交流を進めていくことを確認し、閉会しました。



パネルディスカッションでは積極的な討論が行われた

文化庁委託事業『令和元年度 障害者等による文化芸術活動推進プロジェクト』海外視察

文化庁委託事業『令和元年度障害者等による文化芸術活動推進プロジェクト』の一環として、当機構プログラム・ディレクターの伊東が台湾の北師美術館、中台世界博物館を訪れ情報交換と交流を行いました。

北師美術館は國立臺北教育大學の付属施設として運営され、台湾における現代アートの美術館として広く認知された美術館です。また、中台世界博物館は臨済宗系の「中台禅寺」を母体として、2016年に設立されたアジア最大級の仏像の博物館です。両美術館のキュレーター／広報担当者とお会いして、日台の障害者アートの現状の情報交換とPRを行いました。双方とも長期的な交流を約束し台湾を後にしました。また1月下旬より、一昨年 ARTZONE

での展覧会で交流を行なったフランス・エガールやスイスのローザンヌ美術館他、ヨーロッパ諸国の障害者アート施設や美術館を視察に訪れる予定です。ここでは障害者アート作品販売にまつわる権利やアトリエ制作環境作り等、情報交換とPRを通じて交流を行う予定です。天才アートKYOTOのみならず日本の障害者アートの海外展開の足がかりをつかんでいきます。



中台世界博物館・広報担当者の賣賣獅さん(右から2人目)と

展 覧 会

報 告

『2019年度 天才アートがやってきた!!』 『公共空間にアートの彩り!』 展



昨年と同時期で、本年も四条通地下通路にて天才アートKYOTOオリジナルポスター展「天才アートがやってきた『公共空間にアートの彩り!』展」

が12月3日(火)から行われています。このポスター展は今回で3回目となり、「原画を見たい」「ポスターを購入したい」といった問い合わせが多く寄せられています。

展示場所は、四条通地下通路の11番出入口(麩屋町通付近)から12番出入口(柳馬場通付近)までの間、中央の柱35本の南北両面。約150mにわたって70点(37人の作家)のポスターが連なる様子は壮観で、飾り気のない地下通路が華やかになり、先を急ぐ市民や観光客の目を楽しませていきます。

今回はポスターにQRコードを掲載して当機構のホームページにアクセスできるようにし、購入などの問い合わせができるようになっていきます。

なお、ポスター展は、「京都市下京区民が主役のまちづくりサポート事業補助金」を得て、京都市と阪急電車などの協力により開催しています。2月24日(月祝)まで。

京都市障害者芸術作品展 「いんぷつと／あうとぷつと」

昨年11月16日(土)から11月24日(日)まで、第1回目となる京都市障害者芸術作品展「いんぷつと／あうとぷつと」を堀川御池ギャラリーにて開催しました。天才アートKYOTOでは委託事業者として展覧会プロデュースを行いました。

近年、障碍のあるアーティストの作品が注目される機会も多くなってきました。これらの作品は、アーティストの豊かな想



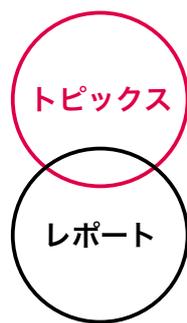
像力から生み出されたものですが、作家の内面から自然発生するのではなく、多くは社会との関わりの中で生まれてくるものです。社会とのつながりから生まれる想像力の源となるモチーフ（いんぷつと：input）の紹介と、その豊かな想像力から生み出された作品（あうとふつと：output）の紹介とともに展示されました。

そして「いんぷつと」と「あうとふつと」を知ることで、障碍のあるアーティストの作品の豊さのみならず、その活動支援、さらには私達をとりまく環境や世界について考えることが展覧会のコンセプトでした。

本展では、京都市内の障害者福祉施設・総合支援学校等のアート制作の巡回相談・支援事業等で見出された計45名ものアーティストたちが作り出した300点を超える作品に、「こんな意外な物が作品の源とは思わなかった」「京都にはこんなに素

晴らしいアーティストがいたとは知らなかった」「すばらしい想像力」と多数の感想が寄せられました。

また本展ではアーカイブだけでなく実験的に実作品販売も試みおり、今後も従来の展示方法に捉われるのでなく新しい展覧会を模索してまいります。



令和元年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受賞

この度、天才アートKYOTOが令和元年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受賞しました。利用者やボランティアの皆さま、その他日頃より当機構の活動をご支援いただいている皆さまに御礼申し上げます。

本表彰は、文部科学省が平成29年度より、



障害者の生涯を通じて多様な学習を支える活動を行う個人または団体について、活動内容が他の模範と認められるものに対し、その功績をたたえ文部科学

大臣表彰を行うものです。3回目となる今年度は、都道府県等より推薦のあった被表彰候補のうち、64件（うち個人12件、団体52件）を優れた活動として選定されました。表彰式と事例発表会は、昨年12月3日（火）に文部科学省東館3階第一講堂にて行われ、事例発表会では支援者による活動紹介とともに、障害者本人によるミュージカルやスポーツの実演などが披露されました。また、講堂前のホワイエでは希望者による展示が行われ、当機構は説明パネルと会報を展示。多くの方が足を止め、会報をお持ち帰りいただきました。



ホワイエでの展示の様子

文化庁京都移転推進シンポジウム「文化のチカラで魅せる 新しい未来」ロビーで展示



ロビーに展示された天才アートKYOTOの作品

文化のチカラで魅せる新しい未来〜Technology（技術）×Talent（才能）×Tolerance（みとめあい）をテーマに、東ちづる（女優、一般社団法人Get in touch代表）、吉藤健太郎（株式会社オレイ研究所代表取締役CEO）、吉本光宏（株式会社ニッセイ基礎研究所理事）、中岡司（文化庁次長）の4人と近藤誠一（公益財団法人京都市芸術文化協会理事長、元文化庁長官）をコーディネーターにパネルディスカッションが行われ、京都のこれからの役割や文化庁移転の意義などについて議論されました。

中岡文化庁次長から京都の地域に密着した取り組みの一つとして、文化庁長官室に天才アートKYOTOの作家による作品が飾られていることが写真で紹介されました。当日の会場入り口のロビーでは、天才アートKYOTOの作品が5点展示され、会場を訪れた人たちは足を止め、作品に見入っていました。

京遊連社会福祉基金より 福祉助成を受ける

当機構は、令和元年度「公益財団法人京遊連社会福祉基金助成」に採択されました。寄附・助成金贈呈式は、昨年11月28日（木）、ANAクラウンプラザホテル京都で開催され、同財団の白川理事長から30万円の助成金を受領しました。

当機構では、陶芸創作活動の開始に向けた環境整備を進めており、助成金は、焼成用粘土の「土練器手回しロクロ」の購入資金に充当する予定です。

これまで当機構では、絵画などの作品制作を中心に活動してきましたが、今後は陶芸作品制作を希望していた作家諸氏の期待によりやく応えることができるようになります。ご期待ください。

車両競技公益資金記念財団助成

公益財団法人車両競技公益資金記念財団の「令和元年度 高齢者、障害者等の支援を目的とするボランティア活動に対する助成」を受けました。



京遊連・白川理事長より助成金を受ける角谷理事長（右）

本助成金は、「高齢者と障害を持つ人たちに對する、社会福祉のボランティア活動を積極的に支援推進し、こころ豊かな社会づくりの実現に寄与することを目的」として、「活動に直接必要な機材の整備事業」に助成されています。



助成で環境が整い、作業効率と質が大幅に向上

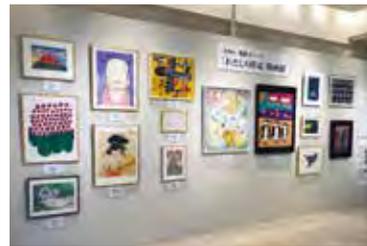
天才アート新道アトリエの登録ボランティアの方々には、これまで整理整頓や作品整理など雑務的な活動に留まっていたが、このたびの助成でグラフィック機能の高いPCやタブレット購入し環境が整ったことで、作品画像の編集・加工やプレゼンデータ制作など、得意技を生かした活動を拡大していただけるようになりました。

早速、企業向けに作品アーカイブ活用のデータ編集をしたり、作家の制作中の様子をタイムリーに撮影・記録し編集したり、といった活動を始めています。

第37回京都新聞チャリティー美術作品展「特別企画」に出展

毎年恒例となっている「京都新聞チャリティー美術作品展」が、昨年10月16日（水）

より21日（月）まで京都高島屋7階イベントホールで開催されました。第37回は「特別企画」として、京都新聞の「福祉のページ」に毎週月曜日に掲載されている「私の作品コーナー」の『原画展』が併催され、これまでに掲載された当機構所属作家の作品200点以上の中から14点の作品を出展し、会場入口に展示されました。



「私の作品コーナー」原画展ブース

京都桂川ロータリークラブ設立30周年記念事業「心の絵展」に出展

京都桂川ロータリークラブが創立30周年を迎えられ、その記念事業の一つとして、障碍のある方々の作品を展示する「心の絵展」が昨年12月17日（火）から22日（日）まで、ギャラリエヤマシタ（寺町通三条上ル）にて開催されました。

この作品展は、障碍者アートの理解が深まり、障碍のある方の社会参加が



当機構の作品を熱心に見入る来場者

より広がることを願って企画され、アート制作に取り組む京都の福祉事業所や総合支援学校の作品66点が展示されました。天才アートKYOTOからも13人の作家が参加し、19点の作品を出展しました。

来場者はそれぞれの作品を興味深く鑑賞していました。作品の購入者もあつて作家には喜びの声があがっていました。

「心の絵展」は、今後も京都桂川ロータリークラブの継続事業として開催を予定されています。

PTAフェスティバルで お絵描きブースを設置

「文化庁 京都移転・私たちができること推進チーム」の取り組みとして、昨年12月14日（土）



お絵描きに夢中の子ども

に開催された第22回PTAフェスティバルにお絵描きブースを設置しました。画用紙、クレパス、色鉛筆やコラージュできるイラストなどの画材を準備し、使いたい画材で好きなことを自由に描けるようにサポートしました。

会場を訪れた子どもたちでいつも満席になるほどの人気で、次々と参加してはお絵描きに熱中していました。参加した子どもには、天才アートKYOTOの作品の缶バッジをプレゼントしました。

上からロゴアート『SONY』2009年 W280×H90mm
『NEWS23』2006年 W250×H170mm、『Levis』2006年
W245×H120、いずれも厚紙・セロハンテープ・木製額



楠川 敦士 Atsushi KUSUKAWA 1993年生
楠川は幼少期より描くことを好み、近くの絵画教室に通いながら、20歳頃までは家庭との両方で熱心に制作を続けてきた。モチーフは動植物や人物、電車など幅広く描いていたが、10代後半頃には大好きな兄が海外に留学していたこともあり、そこに飛んでいけるジェット旅客機やロケット・宇宙船を好んで描くようになった。これらをモチーフとした多くの作品は、大阪府の「ビッグ・アイ」主催の公募展などで、複数回の入賞を果たしている。彼の制作スタイルは、マジックペンなどでモチーフを線描し、必ずアルファベットや数字を画面上に描き込んでいく。それは飛び交う無線交信や会話のようでもあり作品の印象をより際立たせる。

TENSAI
ART
NOTE

天 オ
アート
ノート

楠川 敦士



上から
『大空に向かって』
2018年
W727×H606mm、
『ロケットレース』
2017年
W727×H606mm、
2作品ともキャンバス・
アクリル絵の具・
ペン

富田 晃生

富田 晃生 Akio TOMITA 1989年生

富田は、幼少期からテレビのCMなどに映る商標ロゴに興味を持ち、ブロック玩具などで気に入ったロゴを作ることに熱中するようになった。小学生の頃にはクレヨンなどで紙にロゴを描き、中学生になると、家にあった商品の化粧箱を材料にしてハサミでロゴの形を切り抜き、同じく化粧箱より切り取った台紙にセロハンテープで固定する手法に変化した。現在も同じ手法で創り続け、これまでの作品は優に500点を超えている。作品は、富田の好むロゴをコレクションとして「封印」できる安心感のようなものが得られるのではないかと推察される。ロゴは時代を反映していて、すでに消滅したものもあって興味深い。



『描く未来の風になる』2016年
W100×H148mm、紙・カラーマーカー



『心ゆっくり流れてる』2015年
W100×H148mm、紙・カラーマーカー



『ここにおいて背負っているものを半分もってあげるよ』2016年
W100×H148mm、紙・カラーマーカー

若林 義輝

若林 義輝 Yoshiki WAKABAYASHI
2000年生

若林は、10代半ばごろまでは動植物などを題材として具象的に描くことが多かったが、次第に抽象的な画面に変化していった。ただ、抽象画を描いていても、画面上で「自分と会話」したり、「自分の気持ちを代弁」したりする彼の心象がベースにあることは変わらない。その後、心象を映すモチーフは次第に抽象的な模様で表すように昇華して、画面上にはさまざまな直線や曲線が交錯しながらも、色彩と線が何かを「織り込んで」行くような印象を与え、「物語」のようなものを感じさせる。それは、完成した作品に自分の心象を物語る「ストーリー」的なタイトルを書き込むことでわかる。

ご家族さまより寄稿

アートのように彩られた人生を

藤原美紀

●ママ友の一言で気づいた息子の才能

「よっちゃんって、すごい絵描くね。私、大ファンになったよ」。息子の佳弘が支援学校を卒業する頃、ママ友が私に教えてくれました。その絵は、学校の書き初めの時間に墨と筆で描いたものでした。先生が半紙をつないで模造紙のように大きなものに仕上げられてあり、たくさんの一筆書きのような絵が並んでいました。「絵ハガキにしてほしいわ」と言われ、「好きなものがあったら、このまま持つて行っていいよ」と言うと、「もったいない！写真でいい、写真で！」というママ友。私たち家族には、小さい時から描いていた息子の「上手なお絵かき」の一つであったものが、もしかしたら人に感動を与えられるのかもしれないと初めて思いました。

息子は、自閉症スペクトラムで、今年で25歳になります。高等部卒業後、奈良市の会社で1年間、就労移行施設で半年の経験を経て、今の会社に障害者雇用をしていただき5年目を迎えました。病院の厨房で、昼食・夕食の調理時のお鍋や患者さんが食事をした後の食器を洗浄するのが彼の仕事です。まじめで几帳面な性格と、長い時間をかけていつも手を洗っていた障害ゆえのこだわりがこの仕事に合うようで、会社のみなさんにも大事にしてもらい、なかなかの仕事ぶりだといつも感謝されています。

●趣味はエレクトーンとアート制作

そんな彼の趣味というか、余暇を利用して続けているものの一つが小学校3年生から始めたエレクトーンです。学校か教室以外では弾かないという決まりごとがあり、親の私たちは今どんな腕前なのかもわかりません。一度だけ、支援学校の成人式の全員合唱で「ビリーブ」を伴奏してくれたことが大切な思い出です。

そしてもう一つの楽しみが、天才アートのアトリエでの制作活動です。月に2日しかない仕事の希望休暇の申請も、できるだけアトリエ会に日程を合わせて提出しています。仕事や家の都合で行けない時もあり、そんなときは残念そうです。絵を描くことが好きなのと、自分の居場所としてアトリエをととても大切にしているのでしょ。

彼の代表作は、「平成24年度京都とつておきの芸術祭」で実行委員長賞をいただいた



エレクトーンを演奏する佳弘さん

た「鸚鵡」です。高等部3年の時に支援学校の授業で仕上げたもので、先生が芸術祭に出してくださいだったので



玄関を飾る代表作の「鸚鵡」

した。黒い紙にカッターで切り目をつけ、切り取ったところにきれいな色の画材を細かく貼って仕上げられています。元々手先は器用で、一つのことにも根気よく取り組める彼らしい作品でした。今も我が家の玄関先に「鸚鵡」は飾っており、お客様をお出迎えしてくれます。

最初に述べたママ友の言葉とこの作品の受賞をきっかけに、高等部卒業後絵を描く場所があつたらいいなと思いました。近くの大人の絵画教室に体験で行った時、その先生が天才アートの存在を教えてくださいました。京都市内の支援学校ではなかったで、それまで情報もなく、そこで初めてホームページを見つけ連絡をとり、参加させていただくようになりました。

●感じたままに独自の世界を表現

天才アートに通うようになってからは、午前中にメインの作品を一つ仕上げ、午後好きなキャラクターの絵を描くということとをずっと続けています。図鑑や本の中から選んだ動物や魚、昆虫などの写真をもとに、まず大まかな下絵が完成します。次にその下絵の上に黒い紙をのせて、カッター

でスピーディに切り込みを入れていきます。そして、自由な配色で色を貼って仕上げていきます。頭の中で出来上がりのイメージを持つているのかどうかは本人にしかわからないのですが、「あとは貼るだけや」と彼が言うように、色のついた画材を思いっきりよくどんどん貼っていきます。私たちでは思いもつかないような個性的な色使いで、最初の頃はつい「え？」と声をあげてしまいましたが、そうになりました。

そうして出来上がった彼の作品は、いつも何とも言えない愛嬌のある顔や体の表情を持った生き物で、周りをホッと癒してくれます。誰が



アトリエ会の後に描くキャラクターの絵

教えたわけでもなく、彼が感じ、表現する世界。きつと彼の中に、こんなふうにお茶目で、かわいくて、穏やかで、ゆつ

くりとした時間が流れているのでしょうか。自分に合った仕事に就き、好きな芸術の世界で余暇を過ごし、関わることは少なくとも、大好きな周りの人たちと過ごせる幸せな毎日を彼は生きています。これからもそんな人生を、彼の生み出すアート作品のように鮮やかに彩りながら、一生懸命生きてほしいと思います。彼の幸せな人生を祈りつつ、私たち家族はずっと応援していきます。

副理事長就任のご挨拶

おのぎひろと
大野木 啓人

●彫刻を学び、ものづくりの道に

私は幼少期から言語に障害があり、人と話すことが苦手でした。社会で生きていく上で人とコミュニケーションが取れる唯一の方法として、絵や音楽など芸術の道に進むと決めたのは高校生の頃です。音楽はオタマジャクシのような音符に抵抗があったため、絵の道へ進もうとしましたが、受験に失敗。浪人生活から脱却しようとし、進んだのは競争率の低かった彫刻科です。粘土、鉄、木材など「素材との葛藤」の大学生活でしたが、ここで見出したことは「ものづくりはひとづくりだ」ということです。自分との戦いの中で自己を見つめることや技術を磨くことで達成感や自信など得られる。素材は手を通して人の能力や自然の道



理を教えてください。これは、日本に伝わる茶道、華道、書道といった「道」の概念に通じるのかもしれませんが。

大学卒業後はディスプレイの会社へ就職し、造形に係わることで、引き続き「もの」から学び続けられることができました。自己鍛錬の結果から見ても、出来上がった「もの」は社会で受け止められ、評価を受けたり、喜んでもらったり、時には貶されたりしながら自分と社会とのコミュニケーションを図ってきました。ものづくりは、社会で生きる大きな役割を担ってくれた気がします。

●「ものづくり」から「教育」の世界へ

ものづくりを続けているうちに、教員として芸術大学に招かれ、気が付けば「教育」という世界にも足を踏み入れることになっていました。ものづくりを十分楽しんでいく中に「ひとづくり」が加わったのです。

教育の現場に携わって20年が経ちますが、いまだに難しいものです。素材は正直に自己を映し出してくれますが、人は思うようにいきません。ものづくりは人間としての原点の重要行為であるようです。社会の中で自分という存在を確かめることや、他者に伝えようとする「おもい」を形にすることであり、この表現行為が強いほど人は「芸術」として認識するのです。私にできることは、ものづくりで培ってきた経験から若者に伝えることができるくらいですが、「ただ好きだから」と何気ない気持ちで芸術大学に入学した学生たちを、本気で

何かを生み出せるような人材に育てられるよう模索の毎日です。

●障害のあるなしに関わらず芸術は平等

私が勤める芸術大学でも知的障害者の作品展を行っています。彼らの表現力の凄まじさやオリジナリティーの明確さは芸術を学ぶ学生にとって敵わないものがあります。もし芸術という土俵でみるならば、何処にも、誰にも、その差はないということ。作品を通して感じられます。社会という観念的価値観の中では普通と思われなくても、まったく引けを取らないことは唯一、人を平等にみることができるとは芸術の世界だということではないでしょうか。

天才アーティストKYOTOの取り組みは、社会で生きづらい人々に美術を通して平等であることを表すいい機会であると共に、社会へ参加することで自信を持つて生きてもらえる素晴らしい活動だと思います。従来の概念を覆し、新たな芸術運動につなげる大きな役割を秘めていることでしょう。これからの人間社会はすべての人々が平等で、一人ひとりの個性を尊重しながら、多様性に柔軟になることが必要です。それは生物がこの地球に生まれ、多様性を許容しながら自然の循環を作り上げてきたことと同じように思われます。ものづくり人生で得た自分の哲学をより深化さす意味でも、当研究機構で学ぶことが多いと思っています。お役に立てるよう、共に考え、共に行動しながらより大きな活動につながることを願っています。

天才アーティストKYOTO登録作家による 作品展示・出演のご紹介

エモエモエ☆

ゲシュタルト崩壊フラグさん
2019年8月27日～10月13日
〈会場〉 art space oji
〈主催〉 きょうと障害者文化芸術推進機構

鳥獣幻想園

根ヶ山恵司さん
2019年11月5日～29日
〈会場・主催〉 スタジオ&ギャラリーまっつあら

スタンダード・ジャズ・ライブ

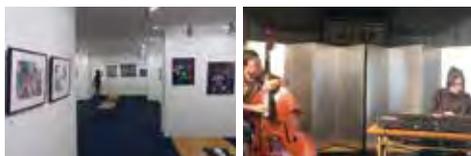
下嶋千佳さん (Chi-Ka-Tsu)
2019年11月23日
〈会場〉 法然院

月組作品展

大場多知子さん・加藤武晴さん
楠川敦士さん・全田ワタルさん
高橋美佳さん・根ヶ山恵司さん
2019年12月11日～17日
〈会場〉 ぎやらりい西利

紙芝居 宇宙ペンギン 原画展

TSUCHIKA AKO
2020年1月13日
〈会場〉 気ままにダイニング
「ふうせんかずら」



作品アーカイブ公開!! コンテンツサービスをスタート

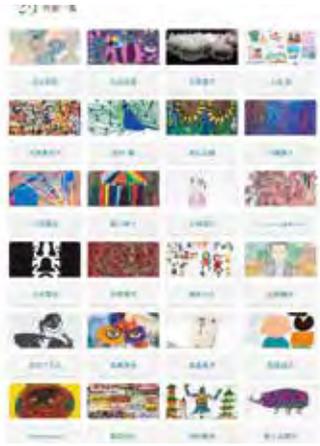
天才アートKYOTOが2015年より進めてきました所蔵作品の作品アーカイブ事業は、本年度で1300点を超えたことから、昨年12月より作家別にデータベース化し、ホームページに公開しました。

これにより、作品画像をコンテンツとして企業が商品などのデザインやさまざまな媒体に活用できるようになり、CSRの取り組みとして利用していただけます。なお、利用に当たってはその使用料をいただき、その中から「ロイヤリティー」として作家に還元します。当機構の設立趣旨でもある「障碍のある作家の自立と社会参加」に貢献する取り組みの一環となります。

利・活用をご希望される方は、ホームページの「作品アーカイブ事業」のページで低解像度の作品画像を閲覧後、希望する作品画像の「使用申込」の手続きをしていただくと、高解像度データを提供させていただきます。

詳細は当機構ホームページをご覧ください。
い。ご利用をお待ちしています。

(天才アートURL: www.tensai-art.kyoto)



ホームページの作家紹介画面

SCREEN HDさま原画レンタル第2弾

2017年11月から、SCREEN HDさまでご利用・ご支援をいただいている原画レンタルの期限が終了し、新たに昨年12月から第2弾の作品展示がスタートしました。



洛和会音羽病院さま原画・複製画レンタル第4弾

洛和会音羽病院さままで2016年11月からご利用いただいている原画・複製画レンタルの第4弾がスタートしました。長らくご愛顧いただいております、作品の入れ替えに時には気づかれた職員さんの笑顔が見られ、楽しみにしていただいているのが感じられました。



会員寄付および

ボランティアさんを募集しています

詳しくはホームページに掲載していますので、ご覧ください。よろしくお願ひ致します。 <http://tensai-art.kyoto>

広告主さま募集中!

『会報 天才アート』は、当機構の活動にご賛同いただける企業様や団体・組織の広告協賛を募集しています。会報の発行部数は毎月3,500部で、会員・協賛団体関係機関、各地の美術館などに配布・配架をしています。1枠(55×22mm)・・・1万円(4回掲載)

●お問い合わせ先・お申し込み先 info@tensai-art.kyoto 携帯

〈編集後記〉

令和初の新年を迎え、2020年がスタートしました。本年夏にはいよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。

3月21日(土)には、リニューアルした京都市美術館が「京都市京セラ美術館」としてオープンします。敷地の北東に新たに完成する「東山キューブ」は、現代アートに対応する展示スペースとして、現代アートのほか、アニメーションやコミック、ファッション、建築、デザインといった、現代の文化芸術を紹介していくそうです。当機構のジャンルである障碍者によるアート作品も、現代アートに属するという考え方もありますので、近い将来、新しい京都市京セラ美術館で作品展が開催できるかもしれません。

そのためには、登録作家さんやご家族、ボランティアさん、支援者さま、機構スタッフが一丸となって環境・体制を整え、社会に認められる存在になる必要があります。最後になりましたが、本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

【表紙の作品について】

土屋は動物や植物の題材を好んで描く。動物の場合は実際に見て来た場面が多いが、植物の場合は写生や記憶によって描くことが多い。いずれであってもメインの題材を大きく描き、その周りや空間に小さな動物や花などを配し、画面左上角には太陽を描く。そして、タイトルは必ず自分でキャンパスなどに裏書きし、写生や見て来た題材による場合は概して物語のように長いタイトルとなり、そうでないときは短いものとなる。

本作は「カラー」とだけ記されてあるため、想像で描いたと思われる。



『カラー』土屋彰男 Akio TSUCHIYA
1971年生 W727×H910mm キャンパス・アクリル絵の具・クレパス 2016年

画材・額縁
画箋堂
京都・河原町五条

一級建築士事務所
町家・古民家再生 / マンション改修
**(株)共立ホーム
エンジニアリング**
06 (6788) 5402 kap@hyper.ocn.ne.jp

Kuretake

京都上烏羽の印刷会社
MORITA
(有)森田美術印刷
京都市南区上烏羽火打形町12 ☎075-692-3131

妙心寺 塔頭
養徳院
永代供養のお寺 075-461-2898

Yo Shima
吉村建設工業(株)
京都市中京区西ノ京小倉町135番地
075-802-1360

広告協賛企業 (順不同)
わたしたちは天才アートKYOTOの活動に賛同しています

HAGURUMA

発展、ともに前へ...
洛和会ヘルスケアシステム®
洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院 洛和会音羽記念病院
洛和会音羽リハビリテーション病院 洛和会東寺南病院